

第6章 マレーシアにおける農林水産物供給状況

◎ 本章のポイント

本章は、統計資料をもとに、マレーシアの農林水産業の状況、そして日本産品を含めたマレーシアの輸入動向をみている。今後の輸出可能性を検討する上での、参考になればと考えている。

本章は、以下の2つの項目で構成している。

- I. 農林水産業の状況
- II. 輸入農林水産物・食品の状況

I. 農林水産業の状況

マレーシアの農林水産業の位置付け、農政の概要、農水産物の自給率を中心に、農林水産業の国内状況を概観している。

II. 輸入農林水産物・食品の状況

マレーシアの輸入状況、日本からの輸出状況を概観する。市場動向を検討する上での参考になればと考えている。

I. 農林水産業の状況

1. 農林水産業の位置付け

マレーシアは国土の約 6 割を森林が占め、農地のうち 4 割がパーム油の栽培地となっていると言われてしている。マレーシアの農林水産業はパーム油等の一次産品の生産と輸出に特徴づけられる（【表 6-1】）。

農林水産業は、1960～70 年代前半にかけて世界的な一次産品需要の拡大を背景に順調に発展したが、70 年代後半以降、周辺諸国の一次産品の生産拡大に伴う国際競争の激化、需要の伸び悩み等に直面し、近年、農林水産業の成長率は徐々に低下しつつある。また、国民経済全体に占める農林水産業の相対的な地位についても、工業化による外国企業の製造工場誘致が進む中で、年々低下傾向となっている（【表 6-2】）。

しかしながら農林水産業は、依然、国民経済の中では重要と位置付け、近年、アブドラ首相体制の下で政府は国内の農業強化方針を謳い、農業の運営における管轄を各省の中に細分化し、また農業に携わる国民への誘因策も検討し始めている。政府は、最先端の情報通信インフラ開発同様に、農林水産業の改革も進めているのが現状である。

【表 6-1】 マレーシアの主要農産物の生産状況（単位：万トン）

	1999	2000	2001	2002	2003	(参考)日本 2003年
コメ(籾)	204	220	209	209	215	974
パーム油	1,055	1,166	1,180	1,191	1,335	-
天然ゴム	77	62	55	59	59	-

出所：農林水産省ホームページ「海外農業情報」

(http://www.maff.go.jp/kaigai/gaikyo/f_z_malaysia.htm)

【表 6-2】 マレーシアの農林水産業の地位（2002 年）

	マレーシア		日本	
	名目額(億ドル)	GDP構成比 (%)	名目額(億ドル)	GDP構成比(%)
国内総生産 (GDP)	952	—	39,788	—
農林水産業	76	8	557	1.4

出所：農林水産省ホームページ「海外農業情報」

(http://www.maff.go.jp/kaigai/gaikyo/f_z_malaysia.htm)

2. 農政の概要

マレーシア政府は、マレーシアの農業政策の根幹となる国家農業政策（National Agriculture Policy : NAP、1992～2010年）の見直しを何度か行ってきた。方向性としては、農業分野への商業的な取組みの導入である。元々この政策は、農業分野発展のための19年にわたる長期計画として策定され、マレーシアの農業政策の根幹となっている。しかしながら、計画開始から現在に至るまで、国際貿易機関（WTO）の発足による新たな農産物の国際貿易に関するルール確立の必要性等から、農業を取り巻く環境は、政策立案当時の90年代初頭と比較して大きく変化している。

このような中で、マレーシア政府は、農業者の所得向上を本政策による成果と評価しながらも、農業を取り巻く環境の大きな変化に対応するため、国家農業政策の見直しを行ってきた。その中身は、マレーシアは日本の9割弱の国土ながら人口は約2,600万人と少なく、労働力不足を解決することが大きな課題の一つとなっており、他産業と比較して所得水準の低い農業分野は、特に深刻な労働力不足に見舞われている。1996年5月に発表された5ヵ年計画では、この解決を目指し、生産規模の拡大と機械化の促進が打ち出された。

農業分野に経済原理を取り入れ、生産の大規模化と機械化を推進することで労働力不足の問題解決とし、さらに、生産性の改善と向上は、農産物の国際競争力の強化につながり、国家間の貿易障壁が低くなった場合にも国内農業生産を維持することができるとした。

さらにここ数年では、国家農業政策は次の4項目を中心目標に掲げている。

- ・食糧安全保障の向上
- ・生産性、競争力の向上
- ・異業種との連携の強化
- ・持続可能なベースでの天然資源の保全と利用

一方、このような状況の下でマレーシアの農業者は、経済的環境の大きな変化を受け入れることを求められているといえよう（【表6-3】）。

【表6-3】マレーシアの農業経済活動人口

	1985	1990	1995	2000	2002	2003
総人口	15,677	17,845	20,363	23,001	23,965	24,425
経済活動人口	6,194	7,256	8,501	9,865	10,405	10,670
農業経済活動人口	2,114	1,985	1,931	1,844	1,795	1,768

出所：農林水産省ホームページ「海外農業情報」

(<http://www.toukei.maff.go.jp/world/index.files/SEIKUNI.HTM>)

3. 農水産物の自給率

主食は、世界の国々にとって国民の基本的な生存を支え生産活力を与えるといわれている。マレーシアの穀類としての自給率は 20%台で、決して高いとは言えないが、気候、歴史、経済、それぞれの事情が反映された結果からの値となっている（【表 6－4】）。

穀類の自給率は隣国のタイが 151%、インドネシアが 84%であるのに、マレーシアが 20%台であるその理由は、イギリスの植民地時代に、熱帯雨林の気候に目をつけた大規模な天然ゴムのプランテーションによって国土の大半の農地が転用されたことに起因していると考えられている。

また、米で見ると、1957 年独立後、米の完全自給を目指して、水稲の二期作化、湛水直播方式の普及を推進した結果、1980 年米自給率 98%とほぼ目標を達成するに至った。しかし、その後マレーシアは一次産品の輸出国から工業品の輸出国へと転換する形で経済発展を成し遂げてきたため、稲作農業は労働力の減少、高齢化による各地での耕作放棄地の増加等により、米自給率の低下を招き、稲作農業は変化を余儀なくされた。

【表 6－4】 主要農水産物の自給率

国(地域)	(%)										
	穀類	米	小麦	砂糖類	いも類	豆類	野菜類	果実類	肉類	卵類	魚介類
アジア											
日本	24.0	92.7	13.1	56.2	78.0	36.2	82.2	47.4	53.9	98.2	50.2
イラン	76.6	67.7	79.1	59.3	102.1	134.6	102.6	106.1	100.1	103.3	65.7
インド	92.4	81.2	104.3	105.5	100.1	87.0	101.1	100.3	105.1	101.9	107.1
インドネシア	84.2	93.7	0.0	57.7	101.2	90.0	96.3	100.6	98.2	99.8	101.6
韓国	26.6	100.2	0.1	44.3	50.2	34.1	97.1	79.3	71.4	99.5	76.1
サウジアラビア	34.8	0.0	129.9	0.0	74.3	10.3	74.5	55.5	62.0	99.2	29.1
タイ	151.4	193.3	0.1	299.7	688.0	113.2	111.0	132.5	129.4	100.8	110.8
中国	101.0	99.5	99.1	104.5	95.6	113.4	101.3	99.9	98.9	100.0	93.1
トルコ	98.0	41.2	101.7	119.1	99.1	111.1	105.3	124.5	101.6	99.8	79.4
パキスタン	95.6	141.6	88.1	97.1	101.8	63.9	98.3	102.6	100.2	100.3	128.2
フィリピン	78.7	95.5	0.0	94.6	90.1	45.5	98.2	123.8	93.2	99.1	82.5
マレーシア	21.9	75.5	0.0	12.9	43.0	0.0	51.8	82.7	85.7	134.2	88.9

出所：総務省『世界の統計 2006』

II. 輸入農林水産物・食品の状況

1. マレーシアの輸入状況

マレーシアの輸入品目状況（農産物：上位15品目、水産物：上位7品目）は下記となる。特徴的なのは、農産物では牛肉であるが、これらは輸出国でハラール認証が取得できるオーストラリア産の牛肉が占めている。また、果物類はオーストラリアやニュージーランド、そして近年ではりんご等が中国から輸入されている（【表6-5】）。

水産物は、さけ、ます、たら、にしん、いわし、かつお、まぐろ、えび、かに、いか、たこ等が中心に輸入されている。日本からも、かつお、まぐろ等が生そして冷凍のかたちで輸入されている（P.103【表6-6】）。

下記にリスト・アップされている品目は、日本からもその輸出機会があることになるが、それらを以前から積極的に輸出している国々と競うことになり、戦略的なアプローチが必要になる。また、その際もハラール認証取得が大きなハードルになる。

【表6-5】 マレーシア輸入品目（農産物）

輸入量：Mt 輸入額：1,000USドル

品目名	2002年		2003年		2004年	
	輸入量	輸入額	輸入量	輸入額	輸入量	輸入額
穀物	5,047,379	606,710	4,876,507	559,316	6,926,676	775,973
牛乳及びクリーム	199,769	276,345	206,824	272,242	210,375	348,287
とうもろこし	2,408,114	262,862	3,485,857	275,182	2,977,594	330,943
小麦及び小麦粉	2,133,314	206,414	1,009,136	176,377	3,416,926	295,592
砂糖（粗糖換算）	1,337,285	258,362	1,371,241	240,601	1,463,372	259,975
大豆	664,324	167,374	587,606	170,405	1,044,142	237,690
牛肉	95,073	117,070	96,685	115,464	121,221	167,298
米（精米換算）	496,251	135,357	368,590	105,425	523,662	146,857
たまねぎ	303,477	67,156	291,175	68,330	205,172	94,048
綿花	52,082	53,415	46,442	54,655	56,105	92,566
オレンジ	124,484	30,310	129,450	30,652	128,637	29,975
ばれいしょ	102,305	23,455	84,367	19,252	107,858	27,847
鶏肉	42,966	55,350	38,641	45,944	16,319	22,892
りんご	79,186	19,922	76,596	17,490	81,159	18,185
ぶどう	24,152	14,565	18,207	11,508	24,993	12,833
トマト	7,905	2,251	6,897	2,107	7,850	2,288
豚肉	2,600	4,359	753	1,082	1,195	1,792
鶏卵（殻付き）	1,704	1,493	1,769	1,408	4,574	1,452
なたね	10,926	2,862	27	16	3,733	1,043
大麦	1,318	358	836	341	1,305	547

出所：農林水産省ホームページ「海外農業情報－海外統計情報－国別農業統計」

【表6-6】マレーシア輸入品目（水産物）

輸入量：Mt 輸入額：1,000USドル

品目名	2002年		2003年		2004年	
	輸入量	輸入額	輸入量	輸入額	輸入量	輸入額
さけ・ます類	7,900	13,466	6,849	11,916	10,551	15,876
たら類	127	537	438	510	726	1,194
にしん・いわし類	8,925	10,338	11,469	13,841	11,003	13,481
かつお・まぐろ類	5,937	8,465	4,294	6,427	4,577	8,614
えび類	56,012	58,731	32,899	74,175	44,516	162,426
かに類	4,760	16,336	3,674	13,205	4,558	17,234
いか・たこ類	4,716	5,366	5,520	6,322	5,121	7,314

出所：農林水産省ホームページ「海外農業情報－海外統計情報－国別農業統計」

(<http://www.toukei.maff.go.jp/world/index.files/suiboukuni.htm>)

2. 日本からの輸出状況

農林水産省「海外統計情報－2 国間貿易統計」から情報を拾うと、マレーシアは、日本の2 国間の農林水産物貿易相手国（2005 年輸出）、上位 30 ヶ国の中で 17 位となる。ちなみに上位 5 ヶ国は、香港、アメリカ、台湾、中国、韓国になる。詳しくは、下記のサイトをご参照いただきたい。

(<http://www.toukei.maff.go.jp/world/index.files/wagakuni2koku.htm>)

対 ASEAN の 10 ヶ国で見ると、日本からの輸出額が一番多い国はタイ(19,698,819 千円、全体では 6 位)で、シンガポール(8,597,147 千円)、インドネシア(3,892,518 千円)、ベトナム(3,718,227 千円)に続き、マレーシア(3,385,563 千円)は 5 番目になる。

2004 年にかつお・まぐろ類を中心に水産物の輸出額が大きく増えたが、この年のこの品目を別にすれば、ここ数年日本からの輸出額は微増傾向で安定している。2000 年の輸出額が 2,545,330 千円なので、2005 年までの 5 年間では約 25%伸びた結果となっている。

品目としての特徴は、かつお・まぐろ類、さばが数量的には多く、これらは日本食レストランや日系小売店向け中心に卸されている。また、醤油、味噌の調味料類や、緑茶、即席麺等は、レストランに加え日本人駐在委員が中心的な購買者になる。また、最近では華僑の裕福層も高品質な日本食材を購入している (P.105 **【表 6－7】**)。

【表6-7】日本からの輸出状況

主要品目	単位	2003年		2004年		2005年	
		数量	金額(千円)	数量	金額(千円)	数量	金額(千円)
農林水産物計			2,856,960		3,432,516		3,385,563
農産物			2,019,163		2,092,532		2,239,071
林産物			286,523		315,928		451,569
水産物			551,274		1,024,056		694,923
アルコール飲料	L	284,891	225,968	282,717	225,530	325,081	271,237
真珠(天然・養殖)	GR	14,382	87,126	64,397	214,276	39,561	152,157
羊毛	KG	19,740	25,417	45,381	72,728	116,219	139,000
かつお・まぐろ類(生・蔵・凍)	KG	1,345,402	164,542	2,977,040	405,066	987,457	138,704
配合調製飼料	MT	269	118,066	236	118,362	331	127,335
製材加工材	CM	247	31,713	474	77,618	823	103,117
貝柱調製品	KG	19,900	93,978	15,440	73,280	8,964	68,167
ブロックボード	SM	319	41,677	240	35,206	390	50,808
さば(冷蔵・冷凍)	KG	-	-	177,660	16,922	681,045	48,943
小麦粉	MT	719	22,648	1,449	39,533	1,706	48,936
緑茶	KG	17,637	34,212	21,388	46,671	21,339	46,463
マーガリン	KG	139,402	34,244	132,132	30,210	120,958	29,847
播種用の種等	KG	20,119	23,014	7,565	27,252	5,191	25,580
醤油	KG	122,970	20,388	158,274	23,798	177,837	24,265
いか(生・蔵・凍)	KG	15,790	10,296	47,825	26,922	43,900	23,759
ひまし油	KG	122,580	20,560	127,080	22,336	128,520	21,656
魚油(肝油除く)	MT	0	15,006	0	15,364	0	20,191
即席麺	KG	30,931	13,594	42,304	14,259	39,484	15,082
寒天	KG	6,200	11,466	9,000	15,522	7,500	13,127
味噌	KG	79,805	12,625	79,253	11,970	75,807	12,146

出所：農林水産省ホームページ「海外農業情報－海外統計情報－2 国間貿易」
<http://www.toukei.maff.go.jp/world/index.files/wagakuni2koku.htm>